

滋賀・湯ノ部遺跡(第一九号)

- 1 所在地 滋賀県野洲郡中主町西河原地先
- 2 調査期間 一九九六年(平8)五月～十一月
- 3 発掘機関 (財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 瀬口眞司
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文晩期後半～近世
- 7 木簡の積文・内容

本遺跡にかかる発掘調査は、一九九〇年度以降、県道の改良工事に伴う事業として継続しており、一九九一年度には「丙子年」(六七六)の木簡が出土している(本誌第一四号)。

今回の調査では、木簡は区画溝S一一二・二〇四、土坑S四四より出土した。区画溝S一一二・二〇四からは、未完成の木製品、廃材や剥片、オガクズなどが大量に出土し、その中に木簡の削屑が混在していた。そのうち現地で抽出した木簡六点については、本誌第一九号で紹介している。これらの溝の堆積物をすべて持ち帰り、水洗選別を行なった結果、判読できる木簡が三〇点ほど発見された。そのほとんどが削屑である。比較的内容が明らかでない削屑五点をここに掲載する。

S四四はS二〇四の真西約5mに位置する土坑で、四・五m×一・六m、深さ〇・七六mを測る。平城Ⅲ期の土器に類似する土器が一括して出土した。木簡(6)が土坑底面にほぼ接するように出土した。

区画溝S一一二・二〇四

- (1) 益麻
- (2) □物七里在□
- (3) □□□里
[中カ]
- (4) □□□
[錦カ]
- (5) □□□
[大朋カ]

土坑S四四

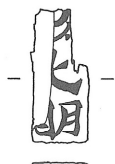
- (6) 五月廿四日□□田力
□□小山□□

(3)の三文字目は、「十」か「寸」とみられる。(瀬口眞司)

釈文の訂正と追加



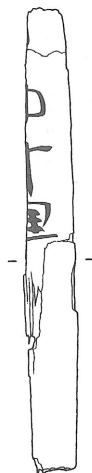
(6)



(5)



(4)



(3)



(2)



(1)

